



海津浦に着く丸子船

海津浦に着いた丸子船

わたせた船板やそれを飾る伊達鍔が使われるのもこの船の特徴でした。

江戸時代の湖上運搬

琵琶湖の水運を使った丸子船での荷物輸送が最も盛んであった江戸時代前期、琵琶湖上には1000艘を超える丸子船が就航していたと言われています。慶安2年（1649年）に琵琶湖の各浦（港）が所有する船数を書き上げた記録によると、大津の109艘が圧倒的に多く、次いで、高島市内の舟木が53艘、今津が52艘、海津が50艘と、湖西の各浦が多くの丸子船を所持していたことが分かります。

琵琶湖の伝統的木造船「丸子船」
丸子船は、江戸時代から昭和初期頃まで、琵琶湖での荷物運搬や漁業の主役として活躍した木造船のことです。杉の丸太を半分に分ったものを重木として船の両側に取り付けていることから、「丸子船」、「丸船」、「マルコ」等と呼ばれてきました。船の構造は琵琶湖の伝統的な木造船特有のもので、船先には斜めに板をつなぎ合

江戸時代、そうした多くの船が各浦で荷物を積み込む際のルールは、天正19年（1591年）に豊臣秀吉が定めた「艦折廻船」の決まりが基本となっていました。これは秀吉が琵琶湖の諸浦に対して、港に船が入港したとき、艦（船尾）が先に浜に着いた船から荷物

を積み込むことができるという船積み順番を定めたものです。荷物運搬の仕事をする人と船主にとって、自分の船に少しでも早く、多くの荷物を積み込むことが重要となることから、荷物の取り合いや積み出しの順番争いなどを避けるため、この「艦折廻船」は江戸時代を通じて、琵琶湖の各浦々で使われるルールとなりました。

丸子船とマキノの風景

こうした丸子船が昭和初期にマキノ町海津の浜に着く様子を写したものが右上の写真です。

丸子船の写真を含めた、大正末期〜昭和初期の海津・西浜の風景を示す写真が、現在、マキノ町海津の中ノ川橋横に開設されている「海津街かどギャラリー」で展示されています。海津・西浜周辺の水辺の生活文化を伝える貴重な写真と、当時の撮影に使われたカメラ・ガラス乾板フィルムと一緒に展示されていますので、ぜひご覧ください。

海津街かどギャラリー

- ▶開設日 2月5日㊤、11日㊤、12日㊤、19日㊤、26日㊤、3月5日㊤
- ▶時間 11時～15時
- ▶場所 マキノ町海津2287番地 中ノ川橋横



編集感

琵琶湖の魚を食べていますか？今月号は「湖魚」について特集しています。日本一美味しい！と評価を受けた「天然のビワマスの親子丼」(P4) など、琵琶湖は美味しい食材の宝庫です。食べる人（買う人）がいないと魚屋さんや漁師さんが湖魚を扱わなくなるようです。せっかく良い状態で湖魚を手に入れることのできる地域に住んでいるのですから、皆さんの家庭の食卓にもいかがでしょうか？我が家の食卓にも並べてみます。(H)

閩文化財課 ☎(32) 4467